

The 50th ADONIS CONCERT

大阪府立四條畷高等学校吹奏楽部



ごあいさつ

大阪府立四條畷高等学校長 稲葉 剛

本日は大阪府立四條畷高校吹奏楽部 定期演奏会「ADONIS CONCERT」にお越しいただき、誠にありがとうございます。毎年このような素晴らしい演奏会を開催することができますのは、本校吹奏楽部員の日々の努力はもとより、保護者の皆さま、OB、OGの皆さま、そして地域の皆さま方の支援の賜物です。厚くお礼申し上げます。

今年度も、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、部活動の休止期間が長期にわたるなど、活動が大きく制限されました。しかし、そのような中でも、部員たちは日々の練習内容や方法を工夫し、できることを一つひとつ積み重ねてきました。畷高祭や大阪府吹奏楽コンクール北地区大会、音楽芸術祭など、生徒たちが一生懸命に奏でる音色と演奏後の爽やかな笑顔は、多くの人の心にあたたかく響きました。

今日は、今年度の集大成となる定期演奏会です。毎日熱心に練習を重ねてきた部員たち一人ひとりが心を合わせて、アドニス（福寿草）のように、美しい音楽の花を咲かせてくれます。演奏を聴いていただいて、音楽の楽しさを感じ、笑顔満開になっていただけたらと思います。短い時間ではありますが、「畷吹」が奏でる音楽を最後までお楽しみください。

吹奏楽部顧問 森川 茂明

本日は定期演奏会「ADONIS CONCERT」にお越しいただき、誠にありがとうございます。

本定期演奏会も50回を数えるに至りました。これほど長きにわたり回を重ね続けることができているのも、一重に保護者の皆さま、OBOGの皆さま、そして地域の皆さまのご支援の賜物と、深く感謝しております。

人類と新型コロナウイルスとの苦しい闘いは、まだ終わりが見えません。当クラブの活動を振り返りましても、昨年にも増して厳しい制限に苦しんだ、思うに任せぬ1年でした。

そんな中、部員達は安心安全な活動に努めることに注力しつつも、知恵を搾って様々な制約条件をクリアし、限られた練習時間を有効に使い、懸命に演奏技術の向上に励んできました。辛いことも、悔しいことも沢山あった筈ですが、挫けることなくひたむきに走り続けることができたのは、『Music with Heart』のモットーのとおり、『皆様に楽しい音楽を届けたい！素敵な時間を過ごして頂きたい！！』との部員達の強い思いが、彼ら自身を支えてきたからだと思います。

本日はそんな部員の真心が奏でる温かい音楽を心ゆくまで御堪能ください。

吹奏楽部部長 木本 光咲

本日はお忙しい中、第50回「ADONIS CONCERT」にお越しいただき、誠にありがとうございます。私たちは、「誰の心にも温かく響く音楽を～Music with Heart～」をモットーに、1年生22名、2年生19名の計41名で日々練習に励んでおります。今年度は、多くの制約がある中での活動となり、苦労や困難もありましたが、沢山の方々の支えがあり、本日、このような状況の中ではありますが、無事、定期演奏会を開催することができました。日々、「畷吹」を支えてくださっている全ての方々に、心より感謝いたします。

本日の演奏会は、2部構成となっており、構成から演出、全て部員が一丸となり、作り上げたものとなっております。皆様に楽しんでいただけるよう、部員一同、日々練習を重ねて参りました。このコンサートをもちまして、2年生19名は引退となります。

私たちにとっても、皆様にとっても、最高のお時間となりますよう、部員一同心を込めて演奏いたします。どうぞ最後までごゆっくりお楽しみください。

曲目

第1部

The Spirit of Youth !

Goff Richards / 作曲

Ray Woodfield / 編曲

ハイランド讃歌より
アードロス城 ダンドネル

Philip Sparke / 作曲

風紋

保科 洋 / 作曲

ディープ・パープル・メドレー

佐橋 俊彦 / 編曲

第2部

☆企画ステージ☆

THE YOUNG MEN

～伝説のヒーローと5人の戦士～

おジャ魔女カーニバル!!

池 毅 / 作曲

三國 浩平 / 編曲

ワタリドリ

川上 洋平 / 作曲

西條 太貴 / 編曲

マードックからの最後の手紙

樽屋 雅徳 / 作曲

曲目紹介

ハイランド讃歌

Philip Sparke

フィリップ・スパーク作曲の「ハイランド讃歌」は、2002年に開催されたヨーロッパ brassバンド選手権でのガラコンサートのためにヨークシャー・ビルディング・ソサエティ・バンドによって委嘱されました。ハイランドとはスコットランド(英国北部)にある地方のことで、低い山々が連なり広々とした高地、人里離れた田舎の美しい風景、そして、この地方に古くから伝わる素朴で美しい民謡やバグパイプの音色、民族色の濃い打楽器群のリズムをモチーフに全部で七つの楽章で出来ています。

各楽章の題名にはスコットランドの城や地名が冠され、その土地の自然や風景、建造物、歴史、文化を感じることができます。

本日は、「アードロス城」、「ダンドネル」の二つを抜粋した特別版で演奏いたします

マードックからの最後の手紙

樽屋 雅徳

この曲はタイタニック号沈没事件と豪華客船タイタニック号の一等航海士のウィリアム・マクマスター・マードックが書いた手紙をもとに作曲されました。

アメリカへの処女航海中であったタイタニック号は1912年4月14日深夜、北大西洋上で氷山に衝突。その後、未明にかけて沈没しました。衝突から沈没までの約2時間40分の間、彼は船が沈む最後の瞬間までタイタニック号の乗組員として、勇敢に乗客の救出にあたりました。

彼は航海中に家族へ手紙を書くことが日課であり、そこには自分の近況はもちろん、家族の安否を気遣う言葉が綴られていたそうです。そんな彼からの「最後の手紙」には、乗客達で賑わう船上の様子や大西洋からの美しい眺め、そして事故を予感させるアクシデントについて語られていたかもしれせん。

彼はスコットランド出身で、曲はその手紙をアイリッシュ調のメロディーで綴っていきます。

冒頭は低音の和音で出航し、木管楽器の流麗なメロディーが増幅していき、次第に金管楽器も加わり船の豪華さが垣間見えます。

次に船上で飲んで踊る場面がアイリッシュ調のリズムとメロディーで出てきます。軽快なリズムで踊る木管楽器、中低音楽器の大らかでゆったりとした歌がしばらく続きます。

そして陽も落ちてゆき、夜の静けさが現れます。故郷を想い懐かしむ雰囲気には包まれていると突如鐘が鳴り、事態が急変し船内が混乱します。管楽器による不協和音がより緊急事態だということを表しているのだと思います。突然のアクシデントで混乱する船内の様子が金管楽器によって激しく奏されます。

そんな混乱した状況の中、最後まで乗客達の救助をしていた彼も最後を悟ったのか、この悲劇が起こるまでの回想の場面に移ります。たくさんの乗客達で賑わっていた船上の様子や美しい眺め、飲んで歌って踊る人々…そんな大らかな歌を管楽器全員で奏してエンディングへ向かいます。

マードックからの最後の手紙を一字一字「読む」ように、聴いていただけたらと思います。

2021年度 活動内容

- 6月 暇高祭（1日目：大劇場、第三芸能）演奏
- 7月 「第60回大阪府吹奏楽コンクール 北地区大会」銅賞
- 10月 音楽芸術祭（サクソス六重奏 クラリネット七重奏）演奏
- 11月 校内アンサンブルコンテスト
大阪府立交野支援学校との交流
- 12月 「HIRAGI CONCERT」開催
「第10回大阪芸大アンサンブルコンテスト」
 - ・打楽器五重奏（金賞）
 - ・クラリネット七重奏（金賞）
 - ・トロンボーン四重奏（金賞）「第48回大阪府アンサンブルコンテスト」
 - ・サクソス六重奏（銀賞）
- 3月 第50回定期演奏会「ADONIS CONCERT」開催

〈第60回大阪府吹奏楽コンクール 北地区大会 での演奏の様子〉



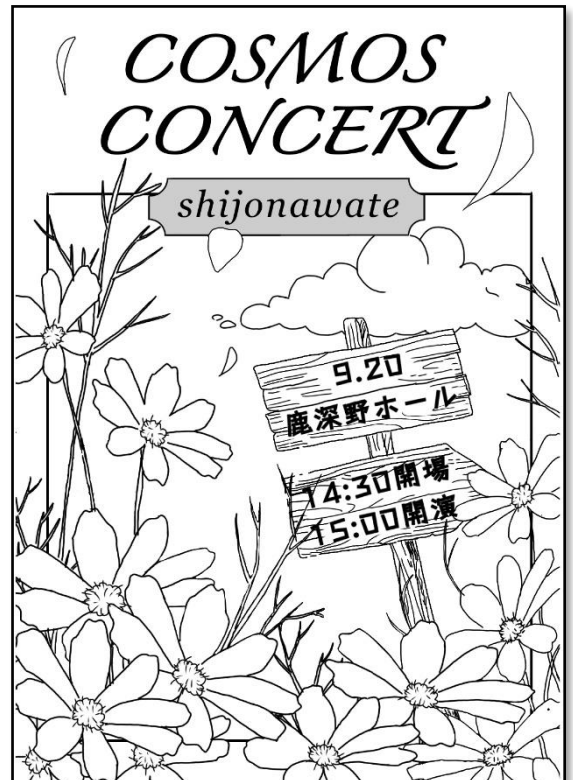
イラストたち

今年度中止になったコスモスコンサートのためにイラスト係が描いてくれたパンフレットの表紙とポスターです！どちらも素晴らしい作品だったので、ここで載せさせていただきました。
※これらは過去の情報で、これから行われるものではありません。



パンフレット
表紙

ポスター



ご来場ありがとうございました。



これからも暁吹をよろしくお願いします。

↓暁吹キャラクター
なわでいあ

